

詐欺被害防止のために ～資料編～

2021年1月

在ドバイ日本国総領事館

在ドバイ日本国総領事館には、ドバイをはじめとするUAE国内はもとより、日本在住の方からも詐欺被害に関する様々な相談が寄せられています。過去に当館で取り扱った／相談を受けた詐欺事案の手口や傾向を以下のとおりに取りまとめました。「あれ、何か変だな？」と感じたらこの資料に目を通していただく等により、皆様が詐欺被害にあうことを未然に防止することに、この資料が役立つものとなれば幸いです。

※ この資料は、在留日系企業、各種団体等において、防犯活動を目的として御自由にお使いください（当館の了解を得ることなく、御自由に印刷、転送、転載していただいて結構です）。

※ 詐欺被害にあった、不審な連絡を受けた場合は、管轄警察に通報するとともに、当館にも御連絡ください。

（当館電話：+971-4-293-8888 メール：ryouji@du.mofa.go.jp）

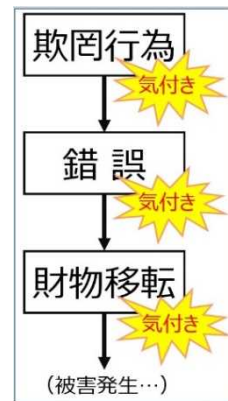
1. 詐欺はどのようにして起こるのか

一般的に、犯罪としての詐欺が成立するまでの一連の流れとして、

- (1) 欺罔行為（犯人が被害者をだます行為をすること）
- (2) 錯誤（被害者がだまされること）
- (3) 財物の移転（財物が被害者から犯人の手に移ること）

といった段階があると言われます。

詐欺犯は言葉巧みに被害者をだましてきますが、被害者がそれぞれの段階で「あれ、何か変だな」と「気付く」ことにより、この「詐欺の一連の流れ」を断ち切ることができれば、被害を未然に防止することができます。それぞれの段階における特徴点・注意点と、詐欺を見破るためのポイントを以下にまとめました。



2. 詐欺犯の手口 (人物、状況を偽る^{ぎも}う行為)

ドバイで見られる詐欺の類型は多種ありますが、大きく分けると4つに分類されます(異なる手口を混ぜ込んだ「ハイブリッド型」もあります)。いずれも、日本の生活では身近でない「ドバイらしさ」「きらびやかさ」があり、だまされてしまいがちです。

犯人は電話、メール、Facebook、Instagram、Twitter、WhatsApp など様々なツールを使って接触してきます。これまでに被害にあわれている、あるいは詐欺のアプローチを受けている方々は、必ずしもドバイ在住者だけではなく、日本在住の方も多く、当館に相談、報告が寄せられています。

それぞれの類型に見られる特徴を挙げた上で、考察していきます。吹き出し に示したのは、詐欺であるとの「気づき」を得られるであろう思考方法の一案や当館としてのコメント等です。

ドバイの詐欺の4類型

金融機関騙り詐欺

王族・政府騙り詐欺

高利商取引詐欺

ロマンス詐欺

(1) 金融機関をかたる詐欺

◆ 銀行機関の幹部 (Manager、Executive Director、CEO 等)、投資担当を名乗る。

⇒ こんな偉い人が一顧客に突然、直接、連絡をよこしてくることは考えにくい!

◆ 「賞金が当選した」、「銀行の規則が変更された」、「支店が変更された」などと、連絡をよこした理由をつける。

⇒ 名目は利益のある話、あるいは不利益のある話のどちらかです。いずれにせよ、急を要すると述べてせかしてきます。

◆ 「すぐに賞金を入金したい」、「あなたの個人情報が必要」、「あなたの口座を貸してほしい」などと至急の対応を迫る。

⇒ ほとんどの場合、犯人は被害者(つまりはあなた)が誰なのか、名前すら知らないため、アプローチの初期段階で「IDを送付してください」などと言ってきます。しかし、これこそが詐欺のサインです。本当に重要な連絡なら、相手はあなたのことを事前に知っているはずです。

◆ 「すぐに対応しない場合は賞金が消滅する」、「銀行の規則に依じなければ口座が凍結される」、「ドバイ政府の規則により罰金が科せられる」などとし、対応を迫る。

⇒ 被害者側が対応を渋ると、不利益の可能性を示唆して即時の対応を迫ります。言い換えれば、相手側も思うようにいかず、焦っている状態とも言えます。相手のペースに飲み込まれず、距離を置きましょう!

(2) 王族、政府機関をかたる詐欺

- ◆ ドバイ首長家、UAE王族、政府高官、彼らの知人／親戚を名乗る。

⇒ こういった立場の方があなたに直接連絡をしてることがあり得るか、冷静に考えましょう。

- ◆ 「賞金が当選した」、「政府の支援が受けられる」、「遺産を相続したい」、「慈善団体設立のため資金が必要」などと理由をかたる。

⇒ いかにも王族や政府高官が言い出しそうな話かもしれませんが、「なぜ、こんな話が私に？」と考えてみましょう。特に理由が思い浮かばない場合、怪しい話だと感じましょう。

- ◆ 「すぐに賞金を入金したい」、「今すぐあなたの情報が必要」、「資産を送金するためあなたの口座を貸してほしい」などと至急の対応を迫る。

⇒ 「地位のある者」をかたり「すぐに対応せよ」と高圧的に言ってくるのが特徴です。考える暇を与えると冷静になって詐欺だと気付かれてしまうからです。

- ◆ 「応じなければ罰金が科せられる」、「王族が経営する弁護士事務所から訴訟を起こす」などと不安をあおる。

⇒ 「うまい話」が通用しなくなると、急に「怖い話」に移行します。求めに応じないから罰金や訴訟の責を負うとは、最初から話を無視して聞いている人は、どうになってしまうのでしょうか？ 無視しましょう。

(3) 高利商取引を持ちかける詐欺

- ◆ ドバイの大企業の幹部、起業支援をする会社、金（Gold）取引業者、仮想通貨業者等を名乗る（アフリカや紛争地域など第三国に所在する企業をかたり、ドバイでの取引を問いかける場合等）。

⇒ 身分偽装は多種多様です。
「ドバイにありそうな」職業や、むしろ「難しくよく分からない」職業や身分の方が興味を引きつけることになるかも知れません。

- ◆ 高利回りの取引、ビジネス商談、金の売買、仮想通貨の高配当話、資金の一部を謝礼として渡すなどと、理由をかたる。

⇒ 日本でこういった話を聞いても、いまひとつ信じがたいかも知れません。しかし、ドバイを舞台とすると、「ありそうな話だなあ」と感じてしまいがちです。でも、実際のところ、そんなうまい話が頼みもしないのに向こうから突然に転がり込んでくることはありません！

- ◆ 「取引の頭金を入金してほしい」、「送金のためあなたの口座を貸してほしい」、「商品輸送のための手数料／税金／印紙代／弁護士代を払ってほしい」などとして金銭を要求する。

⇒ ここが、詐欺の「不思議」なところですよ。お金が儲かる話のはずなのに、なぜ、最初にお金を払わないといけないのでしょうか？ なぜ、自分（=犯人）の口座でできない取引なのでしょう？ 「〇〇料」「〇〇代」に、そんなに高額がかかりますか？

(4) ロマンズ詐欺

- ◆ ドバイ王族関係者や中東アフリカ地域の紛争発生国に在住などかたる異性（軍人、医師等）を名乗る。

⇒ SNSの世界では異性をかたり「紛争地で健気に働く軍人」や「人道支援に邁進する医師」がたくさんいます。出会い、恋愛は自由ですが、相手の素性は十分に分かった上でお付き合いできているか、冷静に考えましょう。

- ◆ 交際や結婚を申し込んだ上で、「多額の資産／投資資金のため入金してほしい」、「日本に行くためのビザ申請費用／渡航費用／手続代行業者費用／弁護士費用／日本語学校費用を補助してほしい」、「家族の手術費用が必要」などと持ちかける。

⇒ 相手は、十分に信頼関係のある対象でしょうか。あなたが「お金を払えばこの人に会える」「この人の役に立てる」と考えても、残念ながら相手はそうは思っていない。

- ◆ 「早く会いたい」、「自分は悲惨な生活状況にある」、「家族が危篤状態だ」、「軍の辞令で来月転勤することになった」などと至急の対応を迫る。

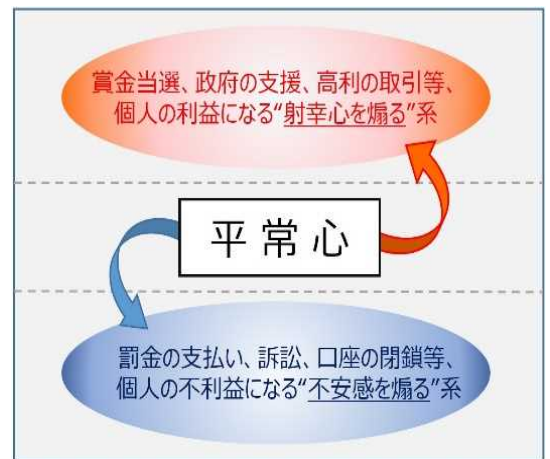
⇒ 恋愛感情を巧みに利用し、同情心を揺さぶるアプローチです。例え相手が苦境にあるとして、それを救わなければならないのは、本当にあなたなのでしょうか。お金は本当に必要なのでしょうか。

- ◆ 「応じなければ交際を破棄する」、「あなたしか頼れる者がいない」、「日本は素晴らしい国だ、日本人は心優しいことを知っている」などと心情に訴えかけてくる。

⇒ 「金の切れ目が縁の切れ目」とはよく言ったものです。相手は詐欺師ですから、「あなたしかいない」と“みんなに”言っています。決してだまされないで！

3. 詐欺に遭う人の心情 (錯誤に陥る)

上記のような手口でのアプローチを受けた方は、平常心の枠組みから、気持ちをはみ出してしまいます。犯人は、個人の利益になる話で射幸心（思いがけない利益や幸運を望む心理）を煽り、あるいは、不利益になる話で不安感を煽って、冷静な判断ができない状況を作り出し、あなたを詐欺の深みに誘い込みます。



4. 実際の被害 (財物の移転)

被害者が錯誤に陥り、正常な判断ができない状態になると、犯人は実際に金銭や個人情報などをだまし取る行動に移ります。ここでその手続を行ってしまうと、被害にあってしまうことになるのですが、以下の「吹き出し」のように考えることができれば、それを防ぐことができます。

(1) 口座情報、名前／生年月日などの個人情報を聞き出す。

⇒ やはり、犯人はあなたのことを何も知りません。知っているとしても、一部の情報のみで、実際にはほぼ無作為にかけている可能性すらあります。あなたから犯人に情報提供をしない限り、犯人は何も手出しができません。

(2) 犯人に口座送金する、犯人に口座を貸す。

⇒ 送金、貸し出しをする前に、本当に必要な手続なのかを考えましょう。そもそも、口座を他人に貸し出す「名義貸し」は、それ自体が違法な行為です。

(3) ワンタイムパスワード (OTP) を聞き出す

⇒ OTPは、誰がなんと言おうと決して他人に教えないでください!
OTPは、本人以外が使うことが許されない、秘密の番号です。例え銀行の担当者でも、OTPを電話やSNS等で聞いてくることはありません。あなたがOTPを他人に教えたがために被害にあってしまった場合、銀行に相談しても、あなたの「過失」を問われる可能性もあります。

(4) ATMから振り込ませる

⇒ ドバイにおいても、ATMから直接現金を振り込ませる手口が確認されています。犯人は通話しながら手続するように指示してきますが、通話状態のままだと周囲に怪しまれるため、イヤホンマイクを使用するように指示してくるケースもあるようです。やましいことがなければ、そんな指示はしてこないはず。冷静に対処しましょう!

5. ドバイにおける詐欺に共通する特徴

以下は、上記に示した各種類型に共通する特徴点です。類型は異なれど、詐欺を実行するために多用される共通した手法であると言え、被害防止のために特に重要なポイントと言えます。

(1) ドバイの「印象」利用

一般的な「ドバイ」のきらびやかな印象を利用して、「ドバイ」「UAE」など地名を出し、日本国内ではだまされないような一見、突拍子もないような内容を利用してきます。ここに引き込まれず、冷静に対応することが肝要です。

(2) 特異な状況の創出

いずれの手口でも、「弁護士」「責任者」「罰金」「訴訟」など、普段の生活では遭遇しないような文言を出して、信憑性を演出するとともに、不安感を煽ります。また、電話口等に複数の人物が登場し、役割を分担して演じて信憑性を持たせるケースも多く見られます。

なお、犯人側はブローケン・イングリッシュを話す場合もあれば、非常に流ちょうな英語を話す場合もあり、一概には言えません。また、会話の端々にアラビア語(様)の文言を挟んでくるケースもあります(インシャッラー(神の思し召し)等)。

(3) 通話状態／チャット状態を継続することを求める

一旦電話やチャットを始めると、それを継続することを要求します。被害者側に考える暇を与えません。

(4) 被害者を怖がらせる演出

怪しいかとも思い反応すると、「王族」「政府」「弁護士費用」「訴訟費用」などの文言を出して、連絡を絶つことができないよう恐怖心を煽ります。

6. 対処法

(1) 「おいしい話」「怖い話」には容易にのめり込まない！

例え上記「2.」のアプローチを受けても、あなたが「3.」の錯誤に陥らず、犯人を相手にしなければ被害にはあいません。また、例え錯誤に陥ってしまったとしても「4.」の行為を行う前に我に返り、詐欺に気付いて金銭や個人情報の提供行為を行わなければ、最終的にだまし取られることはありません。

(2) 相手との接触を一旦中断する！

射幸心や不安感にかられ早急な対応を迫られても、まずは電話を切る、チャットを中断するなど、相手との接触を一旦止めることが重要です。本当に重要な連絡なら、

あなたが一端接触を絶ったとしても、相手は必ず連絡をしてきます。

一方で、詐欺犯の方も、少しでも話を聞いてくれる人に対しては何度も電話、メール、SNS で接触を試みてきます。よく考えて、心当たりのない連絡は「無視」しましょう。真正な連絡かどうか分からない場合は、相手の指示に従うのではなく、周囲に相談するとともに、例えば銀行からの連絡であれば、銀行の本店に連絡し、あるいは代表電話に対して電話をかけ直して、手続の必要性について確認をとりましょう。

この際、犯人側が、別の連絡先（電話番号等）に連絡するように指示してきたとしても、その連絡先も犯人側の一味につながるものである可能性があります。よって、公式ホームページ等で確認できる公的な窓口にかけ直すことが重要です。どこに連絡すればいいか分からない、どのように確認すればいいか分からないというような場合には、当館に御相談ください。

(3) 周囲の人、当館、警察に相談しましょう！

「あれ、何か変だな?」「詐欺かも?」と感じたら、まずは職場、友人、家族など周囲の人に相談してください。また、もし、御家族、職場の同僚、知人等が、何かに焦って急な手続を迫られている様子があったら、「大丈夫?詐欺じゃないの?」と声をかけてみてください。

当館でも様々な前例を承知していますので、電話、メールでいつでもご相談ください。また、ドバイ警察では累次に渡り様々な詐欺行為に関する注意喚起を行っており、オンラインで通報できるシステムもあります。

(4) 決して他人事ではありません！

あなたにも、今日、明日、アプローチがあるかもしれません。日本で日本人からアプローチされた際にはすぐに「怪しい」と感じることもできて、「ドバイ」というイメージのもとでは冷静な判断ができなくなる可能性が高いです。被害にあわないよう日頃から十分に御注意いただくとともに、心配な点があれば当館に御相談ください。

在ドバイ日本国総領事館

電話： +971-(0)4-293-8888

メール： ryouji@du.mofa.go.jp
